



## 例会報告

「大宰府の霊峰 宝満山に登ろう！」

福岡県太宰府市（2025.10.19）

どうしても屋外での活動では、天気が気になる。今回も予報では傘マークが並んでおり、降水確率50%と微妙な天気だ。今年度の山登りは、お隣の福岡県太宰府市の北東に鎮座する霊峰「宝満山」だ。福岡県民がこよなく愛する山で、ヒキガエルが5月頃、下の池から山頂を目指し登ることも有名な山だ。聞くところによると24時間、登山客があるという。霊山であり、ふもとの竈門神社の上宮も宝満山の山頂に鎮座する。829mという標高だけでは低山のカテゴリーに入るかもしれない。しかし、スタートから山頂まで、延々と急な坂と自然石でできた階段が続く過酷な山だ。初めて登る人にとっては、想像を絶する苦しく辛い山である。

参加者は団員15名に加え、金立山水曜登山会の皆さん4名も加わり、総勢19名のグループとなった。出発地点は竈門神社。社殿で登山の無事を祈り登山開始。最初は「どんぐりがいっぱい落ちてるね！」などと会話にもゆとりが感じられた。出発早々、降ってきた雨はすぐに止み、「私は晴れ女だから大丈夫！」などと笑顔での会話も聞かれた。しかし、一宮の鳥居（二合目）あたりまで来ると、少し雰囲気が変わってきた。団員の口は重くなり、変わってゼイゼイと息が切れる音が聞かれるようになった。日頃、子ども達を導く大人たちは、逆に子ども達から励まされながら歩を進めた。急な階段が続く難所の百段ガンキも、子ども達は元気に数を数えながら登り、「本当に百段ぴったり！」と、結果を教えてくれた。私は「あと少して…」「もうそこですよ！」「ほら見えてきました。」何回、説得力のない励まし？を繰り返したのか…。

なんとか尾根まで登ってきた。ここには中宮跡があり7合目の案内板が立つ。小休止する団員（特に大人の方）の表情は硬い。“こんなにキツイと知っていたら参加しなかった！”と心の声があちこちから聞こえそうだ。小休止後、説得力のない「もう少してですよ！」と励ましながらやっと山頂まで登り切った。晴れていれば360度の大パノラマが見えたはずだが、あいにくの曇天。全員で記念写真を撮り、昼食場所であるすぐ下のキャンプ場までくだった。平らで広い空間が嬉しい。

昼食を済ませ、13時20分下山開始。下りは途中まで比較的歩きやすいコースをとった。登りは肺が苦しかったが、下りはすべりやすく足に疲れが溜まる。転ばないように一步一步緊張しながら下るため、肩も凝る。それでも百段ガンギを過ぎた頃には、大人たちは帰宅後のビールの話題で盛り上がる。15時30分、全員が無事下山。今回は根をあげそうな大人たちに元気をくれた子ども達に感謝したい。宝満山は登山者に達成感を与えてくれる、そんな山だった。

（参加者：19名）



竈門神社社殿



ヒキガエルの話を聞く



一の鳥居—まだ余裕



ヒキガエルを探せ!



水の勢いが変わる不思議な水場



初級者コース—ハシゴを下りる



アサギマダラ



福岡市内 (下見時)